

大正十一年二月

出雲路通次郎

東京と京都

日本の中央政府は言ふまでも無く東京である、されど絢爛たる千年の歴史と云ふ上に於ては京都は東京に數十歩も上に居る、東京と京都と云ふことは現在に於て日本の最も有意義なる二大都府である。此が日本に於て、學府とか、或は思想上に於て見る時は兩者甲乙未だ何れであるか云ふことは遽に論定することは出来ぬ。殊に宗教と云ふ上に於ては、京都は最も豊富なる歴史と祖蹟の現在を有して居る。亦環境の靜寂と勉學と云ふことには、京都は復かに東京よりも好適地であらう、殊に宗教家に於て然りである。然し環境の靜寂と、中央政府を離れて居ると云ふことは、一面に大に刺戟に缺けて居つて生ける青年教家の搖籃としては、物足らぬ感じのあるのと、動もすると懦弱に流れ易い弊を以て居る。此の點になると東京は何んと云ふても中央政府だ、青年教家の試練場として痛快な點が多い、刺戟は寧ろ多きに過ぎて、こんな所でも勉強が出来るか知らんと思ふ位だ。是を以て東京は失敗者や脱

線者を多く出す弊も多い變りに、此の激闘をくゞつた青年は隨分物になつて居る所もある。亦東京は激闘場、賣出し場所と云ふことも出来るので、京都は修學場製造所と云ふことも出来る。先づ東京と京都とはこんなことで、兩方共に特長もあるかわりに缺點もある。然し宗教家の修學場としては京都はどうしても見捨てることは出来ないのだ。殊に祖蹟のある所と、寺院の澤山存して居ることも強ち見遁がすことではない。一宗の教學上京都を見捨てること云ふことがあつたならば、一宗立策の上から云ふても大なる缺陥である。此れと同時に東京と云ふ舞臺を忘れたる一宗の立策も亦大なる缺陥と云はねばならぬ。即ち此の兩者の特長は何所までも存立して愈々其の特長を發揮せしめねば一宗雙美の策で無いと云ふことに到着する。何も統一と云ふことは決して單一と云ふことでは無い、寧ろ複雑なる特異分化があつて初めて有意義の統一が生れるのである。世界の氣勢も此を證據立てゝ居る。斯る有意義なる兩者が無益の諍ひをするとか、或る一方が或る一方を無視してかゝると云ふことになつたならば、此は兩者の取り返しの附かぬ失敗である。寧ろ兩者は其の特長を互に尊重せねばならぬ。そうして互に其の缺陷を補はねばならぬ。一宗の團結鐵よりも固く、そうして對外的に敎家の任務を宣揚するにあらざれば、開宗の祖意を現代に意義あらしめることは困難であらう。局に當る人の三省熟慮を希ふて止まない。此が徒らなる政争や、反目にぢぢや々々されては、教育とか思索とか云ふことに頭を向ける者にとつては太だ痛ましいことである。自分は飽くまでも兩者の尊重保全を希願して息ま

インターネット公開許諾のない文章には墨消し処理を施しています。